

07
July

RESULTS JAPAN ANNUAL ACTIVITY REPORT

SDGs 達成のための国際連帯税を実現するシンポジウム 2019

共催：グローバル連帯税フォーラム、国際連帯税アドバイザー・チーム

後援：国際連帯税創設を求める議員連盟、外務省、日本リザルツ、世界連邦運動協会、創価学会平和委員会

企画協力：三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)



平成31年度

事業報告書

日本リザルツ 令和2年2月21日作成

2019 年 07 月 01 日

サイドイベント説明会

三田共用会議所で開催された、第 7 回アフリカ開発会議 TICAD7 公式サイドイベント 実施説明会に行ってきました。会場のレイアウトや使用方法、全体的な留意事項についての説明がされましたが、全体で 250 を超えるイベントがあるということで、全体を統括する事務局も大変そうだと思います。設営や撤収の時間がかなりタイトであったり、また全体の決まりに合わせなくてはならなかったり、これまでの GGG+フォーラムとは異なる難しさもありそうですが、うまく連絡調整していけたらと思います。



令和第 1 回ナイロビ安全対策連絡会

6 月 29 日(土)に在ケニア日本大使館にて行われた「令和第 1 回ナイロビ安全対策連絡会」に参加してきました。治安情勢やテロ情勢、医療事情について、大使館の方から情報を共有していただきました。特に印象的だったのは、治安情勢についてです。ケニアでは、1 年間に約 5,000 件の一般犯罪が発生しています。その多さに驚きましたが、そのうち約 3 割はナイロビ市内で発生しているということにさらに衝撃を受けました。

運良く筆者はまだ何の被害にもあったことはありませんが、周囲をよく見て、細心の注意をはらって生活することが大切だと改めて感じました。日本とは治安情勢が大きく異なるので、安全を第一に、気を引き締めて引き続き業務にあたって参ります。

2019 年 07 月 02 日

猛スピードで工事が進んでおります。

ケニアでは、現在、カンゲミヘルスセンターの工事が順調に進んでいます。今日は、その様子を写真でお届けします。

すでに基礎工事は終わり、壁の建設に入りました。ものすごい勢いです。



石とコンクリートを使って、1段1段壁を作っていきます。段差ができないように水平を測りながら、石を積んでいきます。



日本と違って、工事は全て職人さんの手作業で行われます。

工事現場に来ると、忙しいにも関わらず「シロー」と笑顔で声をかけてくださいます。安全第一で工事が進むことを祈っています。



【(公社)日本 WHO 協会 NEWS vol.178】 6 月の WHO 発信ニュース

日本 WHO 協会の中村安秀様から以下のニュースをいただきましたので紹介いたします。
6 月末に大阪で G20 サミットが開催され、テドロス・アダノム・ゲブレイェスス WHO 事務局長が参加しました。首脳宣言では、国際保健分野の課題としてユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) に対する取り組みに期待が寄せられました。
一方、報道は比較的に少なかったですが、サミット直前の 6 月 13 日・14 日に、Health

Professional Meeting 2019 (H20) が東京お台場で開催されました。主催は世界医師会と日本医師会。秋篠宮皇嗣妃殿下からのお言葉のあと、WHO やユニセフなどの国際機関、アジア・アフリカからの医師会の関係者、日本からの参加者により、2 日間にわたる熱い議論が行われました。

メイン・テーマは、「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) への道」。いま、国際保健の世界でもっとも熱い議論がされている UHC に、真正面から取り組んだ意欲的な会合でした。

日本の国民皆保険の導入前後の医師会の役割について横倉義武日本医師会会長が講演し、葛西健 WHO 西太平洋地域事務局長が「UHC に対する責任の共有と個人の義務」に関するパネル・ディスカッションの座長を務めました。最後に、「UHC に関する東京宣言」を採択して幕を閉じました。UHC とプライマリヘルスケア (PHC) の関連性、政治的なリーダーシップの重要性、ヘルスケアのための人的資源不足など、刺激的な議論が続いた国際会議でした。

私にとっては、ソマリランドからの若い女性医師が参加し、質問していたことに感動しました。ソマリランドはアフリカの角に位置する独立国家ですが、紛争で大変なソマリア共和国ではなく、国際的には国家として承認されていません。「だからこそ UHC が必要なのです」と2 日間の学びを今後活かしていくのだと、元気よく帰国の途につく彼女の背中が大きくみえました。

6 月 17 日に日本 WHO 協会の会員総会が定時社員総会として開催され、4 名の新理事が選任されました。五十音順に、太田謙司氏 (大阪府歯科医師会会長)、茂松茂人氏 (大阪府医師会会長)、高橋弘枝氏 (大阪府看護協会会長)、藤垣哲彦氏 (大阪府薬剤師会会長) です。素晴らしい理事の方々をお迎えできたことは大変にありがたく、日本 WHO 協会の活動の大きな飛躍につながることを期待しています。今後も、WHO をはじめとする国際機関、国、地方自治体、企業、団体、NPO/NGO などと協働しつつ、だれひとり取り残されない「持続可能な開発目標 (SDGs)」の目標達成をめざして活動を展開していきますので、皆さま方のご指導ご鞭撻のほど、何とぞよろしくお願いします。

2019 年 07 月 05 日

岡山県より靴の寄付

本日、岡山県立邑久高等学校の阿部様がスナノミ症対策の靴を寄付するため来所されました。阿部様は昨年にも靴をご持参してくださっています。

今回は暑い中大きな荷物をお持ちくださいましたが、ご本人の写真を撮り忘れてしまいま

した。

こちらがお持ちいただいた靴の袋です。

皆様のお気持ちに支えられて活動が成り立っているということ
を改めて実感します。



2019 年 07 月 06 日

「平和と健康の会」の会員募集について

今週も「平和と健康の会」の会員募集のため企業訪問を行いました。当会の目的は、「世界の平和と健康」のため、「民間企業との連携」も規定されていることから、健康に関わる事業を行う企業を訪問し入会をお願いしています。この会の業務内容としては政策提言含め種々あろうかと思いますが、まずは「民間企業との連携」に絞って企業訪問を行っているのです。

6 月中旬から本格的に訪問を始めて約 3 週間となりますがこれまで 20 社を超える企業を訪問しました。そこで、どんな企業を訪問したかを振り返ってみました。当会の定款第 4 条によれば、当会の活動は平和と健康という目的を達成するため、13 の活動を行うこととされています。企業の視点に関連すると思われる活動としては、(1)「国際保健・医療活動の推進を図る活動」、(2)「栄養の改善、食の生産・摂取の改善及び水・衛生分野の推進を図る活動」、(3)「こどもの健全育成を図る活動」、そして(10)「環境・エネルギー」、となっています。因みに(2)の「栄養の改善、食の生産・摂取の改善」の部分は、2020 年日本開催の栄養サミットもあり、本法人設立の平成 27 年 10 月 22 日の概ね 3 年後の平成 30 年 8 月 27 日付で定款改正を行い追加しています。「平和と健康」には、環境とエネルギーを含めほぼ全業種が関わってくるので、ありとあらゆる業種と企業が対象になると考えて差し支えありません。また、昨今の海外協力における国の政策の一つが、「アフリカ健康構想」といった特定地域対象の業種横断的な視点、日本企業のイノベーションの活用と還元、といった特性を有していることも見逃せません。こうした国の最新の施策動向を民間企業にも伝え、業界・企業連携を後押しするプラットフォーム的役割が当会の主たる業務と言えるのかもしれません。

こうしたことから、訪問当初は、製薬、食品等の業界のトップ企業に集中していましたが、このところ、エネルギーや環境関連企業、資本金が少なくても特徴のある製品を開発した企業、起業後さほど長くはないものの急成長を果たした企業（微細藻類を活用した健康食品・エネルギー開発を行う U 社がその一例）、といったユニークな企業の活動にも注目しています。更に、先の G20 に見るようにプラスチックごみ処理の問題がグローバルレベル

の課題に格上げされていることも無視することはできません。要するに、「健康」に関連する業種と企業、活動の全てが対象だということもできます。

最後になりますが、このところ民間企業連携業務に割く時間が俄然増えて来ていますが、リザルツの本業であるグローバルレベルの感染症対策や栄養改善、難民対策といったアドボカシー活動との関連性を絶えず忘れることなく引き続き進めていきたいと思っています。

2019年07月07日

定期清掃活動の実施

7月6日（土）、日本リザルツケニア事務所では、地域住民の方、ナイロビカウンティの方と一緒にカンゲミ地区の定期清掃を行いました。

GichagiB 地区で、側溝に溜まっているヘドロとごみを取り除く作業を行いました。

掃除前の側溝。ごみと土、そして、そこに雨水が混じり、悪臭が発生していました。

側溝の中のヘドロをすくって、集めていきます。本日の運転手、サイモンさんもお手伝いしてくださいました。

子どもたちもごみ拾いに参加してくれました。

すくったごみを一輪車でごみ収集車が来る場所に持ってきます。



ナイロビカウンティではごみ収集車の数が足りず、ごみの運搬サービスが滞っていることが課題となっています。この日はナイロビカウンティのカリウキさんが、カウンティの車を呼んでくださり、すべてのごみを最終処分場まで運ぶことができました。



子どもたちと記念写真。土曜日の朝にも関わらず多くの方が参加してくださり、本当に有難うございました。



2019 年 07 月 08 日

NGO サンキューセミナー

7月5日（金）に、日本リザルツの会議室で NGO サンキューセミナー「国際保健・理論と実務 ～抗生物質と人間、世界の保健政策～」を開催しました。

今回は長崎大学の山本太郎教授及び国立国際医療研究センターの井上局長を講師にお招きして行いました。また、参議院議員選挙で非常にお忙しい中、逢沢一郎事務所から政策秘書の竹山様がお越しくださり、逢沢先生のメッセージをお伝えしていただきました。

山本教授からは、家畜を太らせるような抗生物質の濫用は薬剤耐性を引き起こす危険をはらんでおり、へたをすると抗生物質発見以前の状態に逆戻りしてしまう恐れもあるということ、人間は 1,000 種類以上、100 兆個以上もの微生物（マイクロバイーム）をまとい、それらと相互に作用しあって生きており、その関係をないがしろにした場合、どのような影響があるか予測が難しいことなどをお話いただきました。

井上局長は、日本が世界に誇る国民皆保険制度は、今後団塊ジュニア世代を見送るまでの 40 年間で制度維持の正念場であり、現在の形で維持するということは考えづらいというほど難しい局面を迎えていること、日本の知見を世界にといた際に、成功事例だけでなく、先に高齢化を経験した国として、うまくいったことも困ったことも含め示すことがきっと他の国の役に立つというお話をしてくれました。

また、今回は厚生労働省から鈴木康裕医務技監、結核予防会から加藤誠也結核研究所長にお越しいただいており、それぞれの近況や抱えている問題などについてご紹介いただきました。講師からのお話が終わった後の質疑応答でも、講師から参加者へ逆指名の質問が投げかけられるなど、非常に熱のこもった議論が繰り広げられました。

セミナー終了後の懇親会もいつも通り大盛り上がりで、皆様のおかげでこのサンキューセミナーを続けられるということに、改めて感謝の気持ちでいっぱいになりました。





2019 年 07 月 09 日

阿部外務副大臣、国際連帯税を発信＞ G7 開発大臣会合（パリ）で

7 月 4 日パリで G7 開発大臣会合が開催され、阿部俊子外務副大臣が出席しました。議題の一つである「持続可能な開発実現のための資金調達」について、副大臣は「国際連帯税を含む革新的資金調達の活用必要性、持続可能な開発のための公的総支援（TOSSD）の議論における国連の関与の重要性について発信（…以下、省略）」されたとのこと。



G7 開発大臣会合記念写真
（阿部議員 FB より）

●「持続可能な開発資金に関する宣言」と革新的資金調達メカニズム

開発大臣会合では「持続可能な開発資金に関する宣言」が採択されましたが、その第 9 パラグラフ（節）では次のように記述されました。「革新的な資金調達メカニズムの重要性を認識した G20 大阪首脳宣言に従って、我々は開発のための追加の資金を動員し、既存の資金の影響を増大させるのを援助するという我々の支持を表明する。…この問題を国際的なレベルで推進する上で、現在日本が議長を務める、開発のための革新的な資金調達に関するリーディング・グループの役割を歓迎する」と。

実際、G20 大阪首脳宣言ではその第 26 パラで次のように記述されました。「…我々は、開発のための国際的な公的及び民間資金、並びに、ブレンディッド・ファイナンスを含むその他の革新的資金調達メカニズムが、我々の共同の取組を高めていく上で重要な役割を担うことができることを認識する」、と。

●8 年ぶり G20 サミットでの「革新的資金調達メカニズム」記述

国際連帯税ウォッチャーから見ますと、今回の大阪サミット首脳宣言の中での「革新的資金調達メカニズム」(*) 記述は、2011 年のカンヌ・サミット以来、実に 8 年ぶりというものでまことに感慨深いものがあります。ついでに G7/8 サミットの方を見ますと、2005 年 (英国)、2006 年 (ロシア)、2007 年 (ドイツ)、2008 年 (日本)、2009 年 (イタリア) までは記述されていますが、2010 年 (カナダ) 以降 2012 年 (米国)、2013 年 (英国)、2014 年 (ブリュッセル)、2016 年 (日本)、2017 年 (タオルミーナ)、2018 年 (シャルルボワ) と記述なしでした (ただし、2015 年 (ドイツ) に記述あり)。

つまり、「開発のための革新的資金調達 (メカニズム)」という考え方が実に 8 年ぶりに国際舞台に戻ってきた、と言えるでしょう。このカムバックは、河野太郎外務大臣の国際社会での国際連帯税発信であり、日本政府 (外務省) の「開発のための革新的資金調達に関するリーディング・グループ」議長国就任であることは間違いありません。

(*) 「革新的資金調達メカニズム」という考え方は、2002 年国連開発資金会議ではじめて議論されたものですが、この考えのもとに 2005 年にフランスが国際連帯税方式、英国が国際金融ファシリティ方式を提案するようになりました。

●国内でも「拡大版 SDGs アクションプラン 2019」に記載される

6 月 21 日開催された SDGs 推進本部 (本部長：安部総理大臣) で、「拡大版 SDGs アクションプラン 2019」が採決されましたが、これは本年 9 月の国連 SDG サミットでの日本の「SDGs モデル」を国際社会に対して発信すること等を企図したものです。私たちは 2018 年にアクションプランが策定されて以降毎回 (2018、拡大版 2018、2019) と国際連帯税を含む革新的資金調達を記述することを要求してきました。そして今回ようやく下記のように「SDGs 実施推進の体制と手段」の項に入れられました。

「2030 年までに SDGs を達成するには、年間約 2.5 兆ドルもの資金が不足していると言われる中、この資金ギャップを克服するためには、革新的資金調達の方法を考える必要がある。国際社会において様々な方法が検討される中、日本は『開発のための革新的資金調達リーディング・グループ』議長国として国際社会の議論をリードする (…以下省略)」、と。

国際連帯税シンポジウムお申込み状況

7月24日に開催される、「SDGs 達成のための国際連帯税を実現するシンポジウム2019」ですが、現在 139 名のお申込みをいただいています。中でも今年は昨年以上に学生さんのお申込みが多く、横浜市立大学の 35 名を筆頭に、青山学院大学、上智大学、国際基督教大学、愛媛大学から総勢 50 名が申込んでくださっています。

国際連帯税についての議論を若い力で盛り上げていきたいと考えていますので、学生さんはもちろんのこと、元学生さんや、まだまだ若い者には負けんという人もどしどしお申込みいただけますと幸いです。

アウオリケニア・トヨタ CEO との面会

7月5日（金）、トヨタ・ケニアの CEO であるデニス・アウオリ元駐日ケニア大使に面会をしてきました。

アウオリさんは元駐日ケニア大使。日本リザルツとは長い間親交があります。

TICADIVの際には、後の世界基金理事であるルーシー・シェジーレ氏と当時のアウオリ駐日ケニア大使の協力もあり、TICAD の本会議の演説において、当時のキバキ大統領がアフリカ諸国の首脳として唯一結核対策の必要性に言及しました。この結果、TICAD の宣言文「横浜行動計画」において、結核対策が盛り込まれることになったのです。

2008 年には寄稿もしていただきました。

また、2012 年にはアウオリ氏の協力のもと、白須が当時のスタッフと保健省長官、事務次官を訪問し、ケニアで結核抑止アドボカシーを行う準備を行ってきました。

こうした積み重ねがあり、日本リザルツは 2016 年 7 月から、ナイロビのスラム街カンゲミ地区で結核抑止プロジェクトを始められました。

2018 年 7 月 31 日にケニア政府と共催で行った GGG+フォーラムケニア版でもご挨拶をしていただきました。

アウオリ氏は TICAD 7 にもいらっしゃるということで、サイドイベントとして開かれる GGG+フォーラム in



TICAD にもお越し下さることになりました。

アウォリ氏のような方が長い間応援してくださっていることもあり、リザルツのケニアでの活動が進んでいます。

多くの方に支えられて事業が成り立っていることをひしひしと感じました。



サンキューセミナー 懇親会準備・後片付け

7月5日(金)サンキューセミナー後の懇親会は盛況でした！準備としては、ジョージア(グルジア) ワインとエビスビール、おつまみを用意しました。山本教授も井上局長も遅くまで皆様とお話しをされ、セミナー参加者どうしても話に花が咲いたようで、とてもいい雰囲気でした。10 時過ぎにお開きとなり、それから後片付けにとりかかり、結局オフィスを出たのは11 時過ぎになりましたが、楽しい時間でした。



2019 年 07 月 10 日

TB-LAMP トレーニング

日本リザルツケニア事務所では、ナイロビで結核抑止プロジェクトを実施しています。

7月8日、9日の2日間にわたって、ナイロビカウンティ内にあるキベラ D.O.とダンドラ I の診療所の検査技師に TB-LAMP のトレーニングを実施しました。

トレーニングは、栄研化学の現地販売代理店、Chem_Lab 社の協力を得て実施することが出来ました。

こちらが今回講師を務めてくださった、Chem_Lab 社のホリスさんとジョセフさんです。



1 日目は座学を中心に TB-LAMP について学び、2 日目は実技を繰り返して行うことで操作方法を習得していきました。

キベラ D.O.の検査技師、ハンフリーさんに伺ったところ、キベラ地区には公私合わせて 80 以上の医療施設があるそうです。キベラ D.O.だけでも毎週約 50 名の結核患者がおり、現在は顕微鏡を使用して診断しているとのことでした。

去年の 8 月に TB-LAMP を導入したカンゲミヘルスセンターでは、結核陽性診断を受ける患者数が、導入前と比較して 2 倍以上になったという成果が出ています。ケニア全土に TB-LAMP を広めて、結核で亡くなる患者さんを 1 人でも減らせるよう、私たちも努めていきたいと思います。

試験後にはナイロビカウンティのマレベさんも仕事の合間を縫って駆けつけてくれ、検査技師たちも喜んでいました。マレベさん、検査技師、Chem_Lab 社のみなさんと記念に 1 枚。

トレーニングは再来週も実施されます。

みなさんの協力を得ながら、引き続き頑張っていきたいと思います。



世界宗教者平和会議（WCRP）世界大会に 国際連帯税を提言＞同 日本委員

貧困根絶・社会正義のための国際連帯税（金融取引税）について、世界で多くの宗教団体・指導者も支持・賛同を表明してきました。欧州カトリック（*）から創価学会平和委員会や人類愛善会（大本教）まで。日本の団体の後者はグローバル連帯税フォーラムの会員になっていただいています。

一方、来月ドイツ・リンダウで開催される世界宗教者平和会議（WCRP）第 10 回世界大会で、WCRP 日本委員会は 15 の骨子からなる『リンダウ宣言へ向けた日本からの提言』を発表しました。その提言では「1 宗教施設が 1 難民家族を受け入れることや、核廃絶の最大の壁だとして核抑止論を否定すること、持続可能な開発目標（SDGs）達成のための国際連帯税の実施などを掲げている」とのことです。注目したいですね。



宗教者や宗教団体の間に広範に国際連帯税の考え方が拡大すれば、それだけ活動の社会的基盤が深まり、かつ倫理性が高まりますね。WCRP 日本委員会のみなさまのご活躍を心より祈念させていただきます。

2019 年 07 月 13 日

チームでコミュニケーションを高めよう！

手元に「Monthly Report for REF」という整理表があります。これは、4月末に、我々の親元の REF (Results Educational Fund: リザルツ教育基金) の Waiswa さんが東京で開催された C20 のため訪日された際、今年度から新たに導入された業務、予算に係るリザルツ共通テンプレートの作成方法について会計担当の坂崎さんと業務担当の小生の二人にご指導いただいたことを受けて、少人数会合等の規模の小さなものから、サンキューセミナーなど中規模のもの、そして議員会合など規模の大きなものまでといった極めて多様な日本リザルツの行うアドボカシー活動を時間別、日別、週別に漏れなく記録し、月末締め会計報告をスムーズに行うために小生が内々作成したものです。その基礎的データをベースに予算担当である坂崎さんから年間予算計画との整合性チェックを頂いて月末には REF に提出するというものです。また、リザルツには伝統的に「白板」と呼ばれる非常に優れた月ごとの事業一覧表があり、全ての基礎的情報はこの書き込みです。

さて肝心の実行ベースですが、4月に始めてから3か月経過したところですが、必ずしも予定通りできてはいないことが大きな課題となりました。先日も、REF からの指摘事項への対応がスピード感が足りず不十分との指摘から、直接米国に電話で説明することになりました。この電話作戦には日頃からご指導頂いている長坂さんの力も借りて東京チーム全員で行いました。お陰様でこちらのメッセージは直接 Waiswa さんには伝わりました。しかしまだ課題もあります。この電話作戦はチーム力を発揮して一気に問題を解決する素晴らしい手法です。協力頂いた皆さんに感謝しています。Waiswa さんとは昨年ワシントンでの IC・ACTION 会議以来の友人でもありますので電話や電話会議の積極活用も含めより一層コミュニケーションを高めていきたいと思います。

2019 年 07 月 15 日

きのことかめ

東京で三銃士が活躍をされているという話を聞き、何か我々もネーミングが欲しいということで色々考えたのですが...

結局、きのことかめの探偵団という名前に落ち着きました。東京オフィスの三銃士に負けない連携プレーでミッションを達成していきます。



2019 年 07 月 16 日

TICAD7 公式サイドイベント合同視察

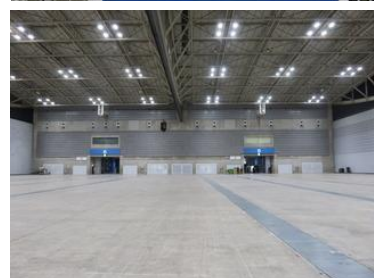
本日、TICAD7 の公式サイドイベントの会場を視察に行ってきました。

GGG+フォーラムは、展示ホール B を区切った会場で行いますが、当然のことながら会場は設営もされていないがらんどうの状態です。

事務局の方の説明を聞きながら、説明会資料を見てイメージするという状況でしたが、ここで開催をするのだという実感は湧きました。

一通り現場確認及び説明が済んだ後、担当者の方をしばし質問攻めにしました。

事務局との連絡、連携が非常に大切であると、改めて感じました。



日経 SDGs フォーラムシンポジウム in NY の開催について

本日、標記シンポジウムが下記の通り開催されますのでお知らせいたします。

本シンポジウムは、国連本部で開催されるハイレベル政治フォーラムに合わせ、ニューヨークでの開催となっています。政府関係者や学識経験者、企業経営者らが、日本の SDGs 達成への課題などを議論する、とのこと。政府関係者には、日頃ご指導いただいている外務省国際協力局地球規模課題総括課長の甲木浩太郎氏も出席されます。甲木課長が出席される会合は、セッション3「日本政府・企業の SDGs への取組み～選ばれる企業とは～」です。キーノートスピーチとして、一橋大学の伊藤邦夫教授による「日本発 SDGs 経営がもたらす企業・投資・社会の変革」、セッション1として、セブン&アイホールディングスの井坂代表と伊藤教授との対談「日本のグローバル企業の SDGs への取組み」、セッション2として「SDGs と ESG 投資に関する世界の潮流」というテーマでのディスカッションも行われるとのこと。協賛企業には、薬品製造業からも名を連ねており、関心の深さを感じます。注目点と思います。

1. 日時：2019年7月16日（火）13時～17時
2. 会場：Japan Society(米国・ニューヨーク)
3. 主催：日本経済新聞社、日経 BP メディアパートナー/フィナンシャルタイムズ
4. 協力：日経 ESG 経営フォーラム
5. 協賛：住友林業、野村アセットマネジメント、大和証券グループ本社、MS&AD インシュアランス グループ ホールディングス、麒麟ホールディングス、丸紅、セブン&アイ・ホールディングス、東京海上日動火災保険、第一三共、りそなグループほか

2019年07月19日

エボラ出血熱

WHO が17日にアフリカ中部のコンゴで猛威を振るうエボラ出血熱について「国際的に懸念される公衆衛生の緊急事態」を宣言したとの記事が出ました。感染が大きな広がりにならないよう願わずにはられません。



2019 年 07 月 20 日

手洗い・トイレセミナー

日本リザルツケニア事務所では、ウエストランズサブカウンティにある 8 つの小学校にトイレと手洗い場を建設しています。7 月 16 日～18 日にかけて、小学生に手洗い・トイレセミナーを実施しました。

セミナーの中では、今回小学校に設置する、LIXIL のトイレ、SATO の紹介と使用方法の説明をしました。SATO は少量の水で排泄物を流すことが出来、カウンター式の弁が自動で閉まるため虫や悪臭を防ぐことが出来ます。

今期のプロジェクトにご協力いただいている、サラヤの北條様、ヴィクター様にもお越しいただき、正しい手洗いの方法を指導していただきました。

指先や親指、手の平の真ん中は手洗いの際、見逃しやすいポイントです。

デモンストレーションを通して、見逃しやすいポイントを再チェックしています。

指先から手首まで、きれいに洗うのは意外と難しいです。筆者も日頃いい加減に手を洗っていることに気づき、反省しました。



最後に専用のライトを使用して、手にどれだけ細菌が付いているか、どのように広がるのかを目視で確認しました。



子どもたちは、セミナーを通して学んだことを、周りの友達や家族、先生たちにも教えると意気込んでいました。



【報道】外務省「SDGs の達成のための新たな資金を考える有識者懇談会」設置

みなさま、外務省が国際連帯税に関して有識者懇談会を設置するということは、既に報告してきましたが、今回その第1回会合が開催されるということで、外務省からと日経新聞から報道されましたのでお知らせします。

この有識者懇談会のメンバーにつき、NGO 代表ということで私も入ることになりました。2004 年にトービン税研究会を金子文夫・横浜市大教授（当時）たちと立ち上げて以来行ってきた国際連帯税活動からの知見を懇談会の議論に反映させていきたいと考えています。

=====

【外務省報道】「SDGs の達成のための新たな資金を考える有識者懇談会」第1回会合の開催

令和元年 7 月 19 日

1 外務省は、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に必要な資金を確保する方策を検討するため、「SDGs の達成のための新たな資金を考える有識者懇談会」を設置し、第1回会合を7月22日に開催します。

2 今回の会合では、革新的資金調達を巡る国際社会の最新状況と今後の段取りについて議

論を行う予定です。

〔参考〕SDGs の達成のための新たな資金を考える有識者懇談会（座長以下は五十音順）

洪澤健	：	シブサワ・アンド・カンパニー株式会社代表取締役（座長）
翁百合	：	株式会社日本総合研究所理事長
柏倉美保子	：	ビル&メリンダ・ゲイツ財団日本常駐代表
神山弘行	：	一橋大学大学院法学研究科准教授
佐々木融	：	JP モルガン・チェース銀行マネジングディレクター
田中徹二	：	グローバル連帯税フォーラム代表理事
土居丈朗	：	慶應義塾大学経済学部教授

外務省は 19 日、国連が定めた「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に向け、資金調達の方法を検討する有識者懇談会を 22 日に開くと発表した。国境を越えた経済取引に課税する「国際連帯税」を軸に途上国支援の財源を議論する。国際連帯税は河野太郎外相が導入に意欲を示している。

座長に社会貢献活動に詳しいシブサワ・アンド・カンパニー代表取締役の渋沢健氏が就く。日本総合研究所の翁百合理事長、土居丈朗慶大教授らが加わる。2030 年までに SDGs を達成するには世界で年 2.5 兆ドルの資金が不足するとの試算がある。



2019 年 07 月 23 日

霞が関の魔法使い、ワシントン DC へ

先週末から霞ヶ関の魔法使いどーら（白須）は、7 月 17 日から 22 日までワシントン DC でした。そして昨日帰国後も休むことなく要人との会合です。

恒例の IC 会議(International Conference)と呼ばれる米国各州のボランティア代表が一堂に介して盛大に行われる

Advocates の祭典には途中の参加となったことから、どーらには参加者との旧交を温めるチャンスはありませんでした。代わりに、IC 会合に続いて 18 日から行われたリザルツ教育基金（Results Educational Fund：REF）のパートナーの集まりである ACTION 会議、そして



最終日のリーダー会議に集中することになりました。2019 年は ACTION 創設 15 年目の節目の年でもあり、リザルツの今後 5 年間の戦略について大所高所の議論が闘わされたようです。また、ACTION 会議終了後の白須とアルドウィンさんとの話し合いには、REF 側からも多数担当者が集まってきたようです。それもその筈、今年は、4 月の C20、6 月の G20、来月の TICAD7、そして来年 2020 年のオリパラ、そして N4G 栄養サミットといった日本でのトップレベルの国際会議に加え、グローバルファンドや Gavi の増資会合も控えているからです。いやが上にも注目度も高まり、グローバルレベルの諸課題と日本の役割、その中での国際 NGO である日本リザルツが如何なるアドボカシーを行うのか、どーらから直接話を聞くことができる貴重な機会となったようです。REF のジョアン・カーター代表も TICAD7 に参加します。東京チームもチームワークを発揮し暑い夏を乗り切り、気持ちよくジョアンを迎えたいものです。

2019 年 07 月 24 日

TB-LAMP トレーニング②

日本リザルツケニア事務所では、ナイロビで結核抑止プロジェクトを実施しています。

先々週に続き、7 月 22 日、23 日にもナイロビカウンティ内の検査技師を対象に TB-LAMP のトレーニングを実施しました。



1 日目の座学には、ナイロビカウンティのマレベさんも参加してくださいました。

マレベさんも検査技師と一緒に TB-LAMP の説明を熱心に聞かれています。



今回特に印象的だったのが、参加している検査技師がとても勉強熱心だったということです。

朝トレーニングが始まる前や休憩時間など、隙間時間を見つけて資料に目を通し、お互いに確認し合っていました。

講師の質問に積極的に答えている女性は、ダンドラ I の検



査技師、ベリーさんです。彼女は顕微鏡も Gene Xpert も使用したことがあるそうです。「顕微鏡検査では技師に高い技術や経験が求められる。Gene Xpert では一度に検査できる数が少ない。また、機械の調子が悪いと再起動に 2 時間ほどかかってしまう。その点で、一度に多くの検査をすることができ、メンテナンスフリーで手順も簡単な TB-LAMP は優れている。」と期待している様子でした。

ケニアから結核がなくなる日が一日も早く訪れることを願いながら、トレーニングを終えました。



きのことかめ 2

日本リザルツケニア事務所では、毎週火曜日と木曜日に清掃活動を実施しています。

この日も、きのことかめの探偵団コンビでカンゲミヘルスセンターのごみ拾いを行いました。



以前、ポイ捨てが酷かった駐車場付近でも、ごみが散らからなくなってきました。

少しずつ、皆さんの意識が変わるよう取り組みを進めていきます。



2019 年 07 月 25 日

GII/IDI 懇談会

本日、外務省で開催された、第 145 回 GII/IDI に関する外務省／NGO 定期懇談会に出席

しました。グローバルファンドの増資、Gavi 増資準備会合、G20 関連、国連総会、TICAD 及びアフリカ健康構想、コンゴ民主共和国でのエボラ流行、栄養サミット 2020 について議論がされる中、日本リザルツからは昨日に開催した、「SDGs 達成のための国際連帯税を実現するシンポジウム 2019」について報告しました。

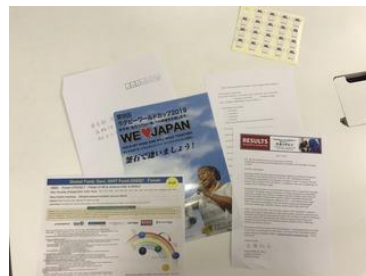
SDGs 達成のための国際連帯税を 実現するシンポジウム 2019

令和元年（2019年）7月24日（水）、13時30分～17時、「SDGs 達成のための国際連帯税を実現するシンポジウム 2019」が、衆議院第一議員会館国際会議室で開催され、総勢275人の方々が参加されました。今年は大学生と高校生など170人を超える若手が参加したことが何より特徴でした。なお、筆者は今年も会館入り口で入館の案内を行いました。ユースの皆様と協力して多くの大学生や高校生を会場に送り込むことができ良かったです。会議の詳細は、UME さんが報告の予定です。

2019 年 07 月 26 日

GGG+フォーラム@TICAD7 準備

本日は GGG+フォーラム@TICAD7 の準備の一つとしてアフリカ 50 数か国の駐日大使館にインビテーションの郵送準備をしています。当日はイボンヌ・チャカチャカが進行役を務めます。GGG+フォーラムには第一回目の開催からいつもアフリカ各国の大使館の方が大勢参加してくださっています。



2019 年 07 月 28 日

きのことかめ 3

東京オフィスの三銃士に負けじと、結成したきのことかめの探偵団。

土日も朝から業務に従事しております。

きのこ氏真剣に作業中
です！



これ似てますか？かめ作成
です。

本人と比較してみました。

こんな感じで、ケニアチームはほのぼのやっております。



2019 年 07 月 30 日

国際連帯税シンポジウム

7 月 24 日に開催された「SDGs 達成のための国際連帯税を実現するシンポジウム 2019」についてご紹介します。昨年もほぼ同じ時期に国際連帯税を「考える」シンポジウムを開催しましたが、今年は去年とも一味も二味も違うシンポジウムとなりました。

国際連帯税創設を求める議員
連盟衛藤会長あいさつ



同議員連盟逢沢副会長あいさ
つ



同議員連盟初代会長、津島元厚生大臣あいさつ



去年との違いとして、1点目は長年にわたる租税法の研究や税制改革への貢献により昨年文化勲章を受章された、東京大学の金子宏名誉教授にお越しいただき、記念講演を行っていただいたことです。

東京大学金子名誉教授記念講演



両先生に、花束が贈呈されました。



横浜市立大学上村教授講演



去年との違いの2点目は、若い力である学生さんをより一層巻き込んだことです。第2部は学生たちとの対話という題で、主に学生さんと参加していただいた国会議員の方々の間で、どの国際連帯税を実施するのがいいか、連帯税の実現のために何ができるかといったことについて議論が交わされました。





国会議員や省庁関係者からの意見



第3部は、国際機関や製薬企業、栄養関係者や患者代表など様々な立場の人でラウンドテーブル・セッションが行われました。



第4部では、ローラン・ピック駐日フランス大使から、フランスにおける国際連帯税や革新的資金調達に関する取組みについてのお話がありました。



第5部は宣言文の採択です。

宣言文を読む学生。今年は国内世論を盛り上げるということと併せて、9月の国連総会における革新的資金調達に関するリーディング・グループのサイドイベント等に学生代表を派遣するという意欲的な内容が盛り込まれました。



外務大臣に手渡すところです。



その後、河野外務大臣に花束が贈られました。



この日、異動が発表された甲木地球規模課題総括課長にも、花束が贈られました。



最後は外務大臣との記念撮影タイムとなっていました。



2019年07月31日

GGG+フォーラム@TICAD 7 準備作業本格始動！

今日は7月31日。明日からいよいよ8月です。つまり、GGG+フォーラム@TICAD 7開催まで一カ月を切りました。このため、準備作業が活発化しています。TICADの主役となるアフリカ各国要人への招待状発出、関係議員の先生方へのご案内の配布、一般参加者へ

の案内文の送付、会場セット等各種準備作業が本格化してきました。こうした中、お忙しい中でお手伝いに駆けつけて下さる方もおり、お陰様でアフリカ各国への招待状発出作業については滞りなく終えることができました。そして、週明けの今日は、早朝からシアトルにあるビル&メリンダ・ゲイツ財団本部の方々と交えた GGG+フォーラム第二セッション「アフリカ栄養改善」についての電話会議。栄養三銃士の仲間のセーブ・ザ・チルドレンの皆様（堀江さん、大沼さん）も各所からの参加です。ゲイツ財団、セーブ及びリザルツの3者が協力しながら進めるという基本形ができてきました。電話会議も効率的に進められ、30分もすると関係者の意識合わせができてきました。そういう筆者も議事録作成者として参画させていただきました。暑い夏が本格化する中、1時間早めの事務所到着、丁々発止の英語による議論、悪くないです。夕方には、大沼さんと共に国際母子栄養改善議員連盟の先生方への参加お願い文の配布作業。皆さん、毎日暑いですが、今週も頑張っていきたいと思います！！

